

長野商店の大看板

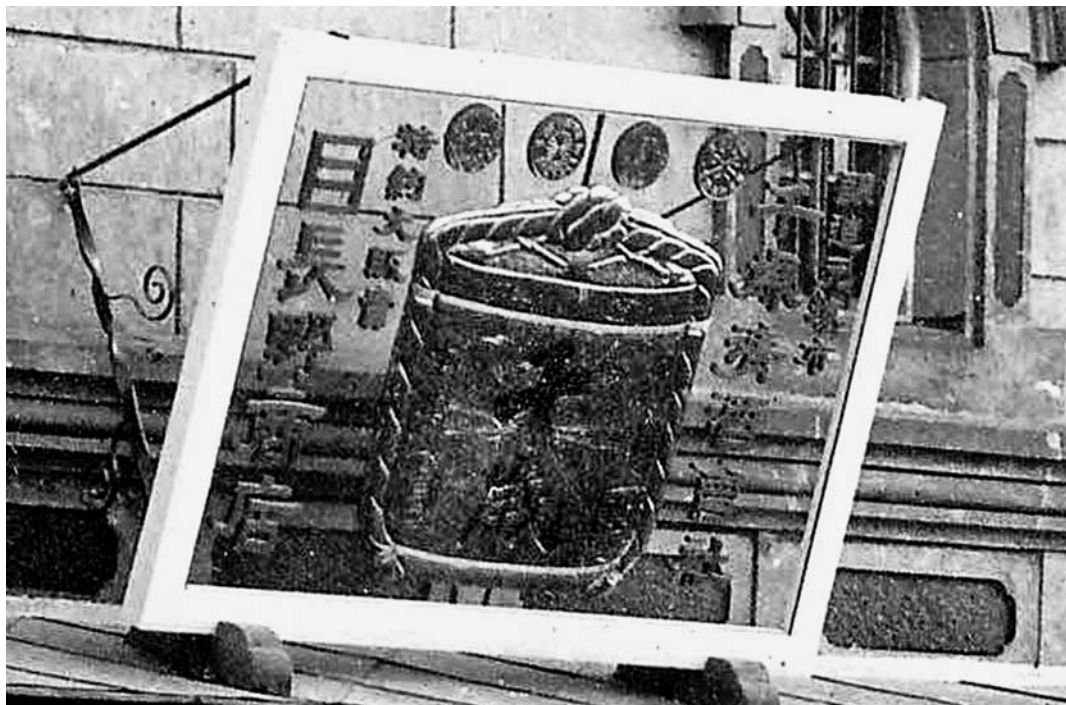


写真1 清酒「千歳」の看板

昨年からいしかり砂丘の風資料館の横に進められてきた市指定文化財旧目長野商店の移築復元工事がほぼ終り、内部の展示工事を残すのみとなりました。5月には皆さんに公開ができるでしょう。

写真1は、長野商店の正面を飾っていた清酒「千歳」の看板です。「千歳」は、大阪府堺市の千歳清酒会社が造っていたお酒です。このお酒は、北陸地方から北海道を中心に販売され、大阪酒の代表的銘柄として知られていました。看板は縦約1.5m、幅2.1mもある立派なもので、千歳清酒会社から長野商店に贈られたものと考えられます。

実は、明治30年代後半まで北海道で消費されるお酒の4分の1は灘、堺方面からの大阪酒でした。明治36年に「千歳」は、一樽(4斗1120)20円くらいで売られていました。これに対し、一般の上級酒は、13円くらいでしたから1.5倍くらいの値段で売られていたようです。

「千歳」をはじめとする大阪酒は、中流以上の家庭や料理店で飲まれる高級品でした。醸造元が長野商店にこのような看板を贈るほど、石狩ではこの高級酒が売れていたのでしょう。

一方、長野商店でも明治から大正にかけて酒造りをしていました。清酒は「日の出」という銘柄で、そのほかにどぶろくや焼酎も生産しており、こちらは庶民のお酒です。高級酒を飲むお金持ちから、どぶろくや焼酎を楽しむ庶民まで、当時の石狩町は、さまざまな人たちが生活する活気のある町でした。

もうすぐ完成する旧長野商店にはもちろん、「千歳」の看板も掲げます。建物だけでなく看板からもにぎやかだった明治大正時代の石狩本町地域の雰囲気を感じていただければと思います。

(工藤義衛)



写真2 昭和12年ごろの長野商店
※写真の囲み部分を拡大したものが写真1です

復元した看板
上部の円盤は、
品評会での受賞メダル



- 文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711
✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp
- 石狩海浜植物保護センター ☎72-3240
✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp